

2016年6月15日発行

会 報

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部
事務局連絡先 Phone : 080-9495-8566 E-mail : ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
支部長 : 山下 久吉 事務局長 : 大井 寿彦 会計 : 土屋 国彦 広報 : 齋 強志・加藤 和仁

平成28年度 年次大会 (第1回)



1. 年次大会 概要

日時 : 2016年4月16日(土) 13:30~

会場 : 静岡県男女共同参画センター

「あざれあ」(静岡市)

参加者 : 56名

進行 : 大井事務局長

報告 : 山下支部長

第1号報告 : 2015年度事業報告

並びに収支決算

第2号報告 : 2016年度計画

並びに収支予算

第3号報告 : 規約、内規関係

第4号報告 : 県支部組織人事体制

第5号報告 : 外部組織との契約書

第6号報告 : 賛助会員一覧

2. 講演

「VW ディーゼル車排出ガス不正の深層と、
未然防止の考察」

静岡県支部会員 宮野正克氏

「静岡・浙江ビジネスフォーラム」

三重県支部会員 春田要一氏

「静岡・浙江ビジネスフォーラム」

「横浜の杭偽装事件、技術者倫理とリスク管理」

静岡県支部会員 小久保優氏

3. 懇親会

場所 : 日本海庄屋 静岡駅構内 ASTY 静岡店

参加者 : 39名

第1号報告：2015年度事業報告

並びに収支決算

4月18日（土）静岡県支部設立準備総会を開催し、任意団体「静岡県技術士協会」を発展的に解散すると共に、中部本部静岡県支部に引き継ぐことを決議した。

8月8日（土）に静岡県支部設立記念式典を開催し、正式に静岡県支部として発足した。

1) 会員の状況（2016年3月31日現在）

名誉会員	3名(重複)	
正会員	197名	
準会員	77名	計274名

2) 支部例会等の報告

(1) 2015年度静岡県支部設立準備総会

2015年4月18日（土）開催

(2) 静岡県支部設立記念式典

2015年8月8日（土）開催

(3) 例会 計4回開催

(4) 地区ブロック活動

東部、中部、西部 各1回開催

3) 委員会関連報告

(1) CPD委員会

支部主催のCPD行事、例会の企画、実施。

(2) 防災委員会（災害協定研究委員会）

a. 支部防災委員会の活動

b. 静岡市との協定に係る災害協定研究委員会の活動

(3) 社会貢献委員会

a. テクノロジーカフェ

2015年1月より毎月一回活動を続けている。

b. 理科支援委員会

静岡県支部会員の講師により3件愛知県で授業を実施。また、小学校以外の理科イベントに4件参加。

(4) 事業開発委員会

- ・交通基盤部農地局農地整備課からの電気関係整備工事の検査業務について技術士の推薦依頼に対応。（12件受託）
- ・交通基盤部建設支援局建設業課から工事紛争審査会委員として対応。（今年度は案件なし）
- ・牧之原市と2015年11月30日に公共土木施設に係る技術的助言に関する包括協定締結。包括協定の概要は、公共土木インフラが自然災害などで被災し大規模改修が必要となった時、もしくは、各事業実施時における様々な課題やニーズに対して、専門的な立場からの助言や広い知見からの情報・ノウハウを求められることになる。
- ・中小企業中央会主催の「ものづくり・商業・サービス革新への補助金」の審査員対応。（1次・2次審査で延べ9名の会員が対応）
- ・経済産業省地域経済産業グループ主催の「産官金連携による中小企業支援のための企業評価制度を活用したモデル実証事業」へ当支部会員2名が参加、各々1社の評価を行った。

(5) 広報委員会

会報発行 4回（第150～153号）

4) 浙江省との技術交流

- ・浙江省科学技術庁から国際技術マッチング会への招待（2名対応）
- ・「静岡・浙江ビジネスフォーラム」に参加。
- ・静岡・浙江環境産業協力フォーラムに参加。

5) 2015 年度会計決算報告

- (1) 事業活動収入 1,102 千円
- (2) 事業活動支出 1,451 千円
- (3) 当期収支差額 -349 千円

※静岡県支部立ち上げに際しての経費（役員会、設立記念式典等）のため支出増となった。

2) 事業計画

- ・年次大会 2016 年 4 月 16 日（土）開催
- ・例会開催 5 回予定
- ・地区ブロック活動
東部、中部、西部 各 1 回開催予定

第 2 号報告：2016 年度計画並びに収支予算

1) 事業推進の方針

会員相互の自己研鑽を支援するとともに技術士集団としての存在価値を広く深く社会に認知していただくために努力すると同時に地域社会に貢献することを目指す。

3) 2016 年度会計収支予算

- (1) 事業活動収入 1,258 千円
- (2) 事業活動支出 1,216 千円
- (3) 当期収支差額 42 千円

第 4 号報告：県支部組織人事体制

※：各委員会の委員長

支 部	役 職	氏 名
統括本部 役 員	理 事	岡井政彦
	防災支援委員会	吉田建彦
中部本部 役 員	副本部長	山下久吉
	中部本部幹事	吉田建彦 長嶋滋孔 井辺博光 山之上誠
	総務委員会	大井寿彦
	企画委員会	長嶋滋孔
	CPD 小委員会	井辺博光※
	修習技術者支援委員会	森 一明
	試験委員会	中村 央
	広報委員会	五味道隆
	活用促進委員会	山下久吉
	社会貢献委員会 (防災支援委員会)	吉田建彦※ 山之上誠 仁科 憲
	社会貢献委員会 (理科支援委員会)	吉田建彦
静岡県支部 幹 事	支部長	山下久吉
	副支部長	長嶋滋孔
	副支部長	岡井政彦
	副支部長 (事務局長)	大井寿彦
	中部担当幹事	柴田達哉 山之上誠 關 尚彦
	西部担当幹事	井辺博光 森 一明 仁科 憲 中村 央
	東部担当幹事	山下久吉 大井寿彦 土屋国彦 齋 強志
		加藤和仁
	会計幹事	土屋国彦
	会計監事	五味道隆 松本 亨

静岡県支部 委員会	CPD委員会	井辺博光※ 關 尚彦 長嶋滋孔 大嶽陽一
	広報委員会	齋 強志※ 加藤和仁 山下久吉
	防災委員会	近藤 衛※ 山之上誠 吉田建彦 柴田達哉
	(災害協定研究委員会)	山之上誠※ 關 尚彦 吉田建彦 松本 亨
	社会貢献委員会	吉田建彦※
	(テクノロジーカフェ)	山之上誠※ 吉田建彦
	(理科支援委員会)	吉田建彦※ 柴田達哉
	事業開発委員会	山之上誠※ 柴田達哉 鈴木敏弘 岩田良明

第5号報告：外部組織との契約書

1. 中小企業診断士協会 「中小企業等への支援に関する覚書」
契約日：2009年5月7日
2. 静岡市 「災害時における市民への復興まちづくりの助言に関する協定書」
契約日：2016年3月21日 組織名称変更のため再契約
3. 静岡市商工会議所 「技術評価に関する協定書」
契約日：2012年9月3日
4. 牧之原市 「公共土本施設に係る技術助言に関する包括協定」
契約日：2016年11月30日

第6号報告：賛助会員一覧

2016年4月1日時点

No.	会社名	役職	代表者	所在地
1	株共和コンサルタント	代表取締役	杉本 洋	浜松市
2	株建設コンサルタントセンター	代表取締役	小田 秀昭	静岡市
3	太洋電機株	代表取締役会長	大石 敏男	静岡市
4	株日本地理コンサルタント	代表取締役社長	山田 巧	静岡市
5	株東日	代表取締役	鈴木 正之	沼津市
6	株中部総合コンサルタント	取締役社長	豊田 哲也	浜松市
7	吉田測量設計株	代表取締役	吉田 英司	浜松市
8	昭和設計株	代表取締役社長	山村 卓道	静岡市
9	株蓮池設計	代表取締役	蓮池 康彦	浜松市
10	不二総合コンサルタント株	代表取締役社長	近藤 拓己	浜松市
11	株フジヤマ	代表取締役	藤山 義修	浜松市

年次大会（第1回）での会員による講演

(1) 「VWディーゼル車排出ガス不正の深層と、未然防止の考察」

静岡県支部会員 宮野 正克氏



宮野 正克氏

VWの排出ガス不正問題はどこの企業でも起こり得ることで、防止することは極めて困難。不正問題の深層・原因を考え、再発防止・未然防止をどうすればよいか考察していきたい。

今回不正が発覚したディーゼルエンジンは、燃料が軽油であるため安価で、燃費・トルクが良く、CO・CO₂排出量も少ないとガソリンエンジンより優れた点が多いが、NO_x対策が非常に難しく、排出ガス規制の基準値がガソリンエンジンより緩くても中々達成が難しい。

西欧市場では新車販売の過半がディーゼル車となってきている中、VWは計測モードのみ排出ガスを正常化する不正プログラムを使用。2009年から世界で約1,100万台が該当。ポルシェなどの高級ブランドでもエンジン共用のため不正プログラムが使われていた。VWの設計標準「MQB」の弊害ともいえる。もう一つはガソリン車で二酸化炭素(CO₂)排出量の不正申告(実際よりも燃料消費率(km/l)を良く申請し、エコカーの優遇措置を不正に受けた)であり、単純不正行為で最も深刻な問題。

この問題が簡単に発覚しなかった背景は排出ガス測定自体が伴走車が必要など簡単にて

きず、不正の悪影響がすぐに出ないことが挙げられる。発見には浜松ホトニクス的小型化したセンサーを用いて堀場製作所が車載式測定装置を開発したことが大きく貢献した。

技術者がなぜ不正に走ったか? ディーゼルエンジンのNO_x対策が非常に難しい中、厳しい目標達成に追い立てられたこと、排出ガス測定が複雑難解でばれにくく、ディーゼルエンジンが環境に貢献しているという驕りもあったのではと思われます。企業として不正が防げなかったのは、経営者のリーダーシップ欠如とMQBを推進する中で34万人の大企業になりコンプライアンスが希薄となったなど人間的綻びもあったと思われる。

未然防止策としては、「物をつくる前に、人をつくれ(松下幸之助)」、原点であるポルシェ博士の設計思想に戻りクリーンディーゼルに正面から取り組む、企業統制を自主管理・自己責任へシフトし、世界標準への自己適合宣言をし、法令コンプライアンス順守を自己責任とするなどが考えられる。

(2) 「静岡・浙江ビジネスフォーラム報告」

三重県支部会員 春田 要一氏

3月2日にセントレアより出発。3月3日に浙江省経済信息化委員会を表敬、杭州-紹興を訪れ、14時より静岡・浙江ビジネスフォーラム(浙江省紹興市 紹興国際大酒店)に参加。3月4日は紹興で3社企業訪問。

ビジネスフォーラムでは基調講演として「モノづくりの現場から見える日本の企業経営者(リーダー)像~経営者の再発見した視点~」を静岡産業大学総合研究所所長の大坪

氏が講演され、次に浙江省の中小・製造業を対象にした事例として浙江省から「日本の専門家から技術指導を受けたメリット」張氏(嘉興華昌電気装有限公司)、静岡から「日本企業の環境経営方式とバリューチェーンマネジメント対策」(小久保優会員)、私から「三現主義(現場・現物・現実)に立った鍍金会社における不良低減活動」の事例紹介を行った。参加者は約200名ほど。3月4日は企業診断(技術相談、品質相談、現場指導)として浙江古越龍山電子科技發展有限公司、紹興福清衛生用品有限公司、紹興光大芯業微電子有限公司の3社を訪問。企業を訪問した印象は、作業者が多すぎる。製造の自動化を早急に図る必要あり。日本人の指導があったのか5Sはよくできている。驚いたのは医療器具にも関わらず素手作業でマスクもない管理体制であったことや、テープキャリアの治具に錆・汚れがあり、異物の発生源となっており、さらにクリーンルームにも関わらず清掃員が掃除するなどクリーン度に関する認識が低く違和感を感じた。全体を通じて、品質問題を抱える企業が多いのではないかと感じた。

(3) 「静岡・浙江ビジネスフォーラム報告」
「横浜の杭偽装事件、技術者倫理と
リスク管理」

静岡県支部会員 小久保 優氏



小久保 優氏

1. 静岡・浙江ビジネスフォーラム報告

「日本企業の環境経営方式」という題で環境経営として国民運動「COOL CHOICE」の内容(カーボンオフセットのためのCO2削減のやり方)を報告。そしてバリューチェーンマネジメントについては日本の環境マネジメントシステムが企業全体の価値をあげるため、あらゆる部門を対象に積極的に推進していること、その中で環境リスクを低減すること、つまり環境に関する経営課題が将来の事業活動と密接に関係しており、エネルギーの測定と省エネを実践していくことが、企業価値を向上させる手段であるということを報告した。

2. 横浜の杭偽装事件、技術者倫理とリスク管理

技術者倫理による系統だったリスク管理の徹底がこれからの企業の経営対策である。

平成27年10月6日に三井不動産レジデンシャルがデータ偽装を国交省に報告し、10月22日に旭化成建材の現場代理人が過去に施工した杭打ち工事が9都道府県41件と判明。社会的・民事的に大きな企業責任となった。

リスク管理は経営としての技術者倫理が大切。旭化成建材の危機管理の成否は、経営トップのリーダーシップにかかっている。施工管理マニュアルを有効なものとするには、訓練による教育・検証が不可欠(一対のものと考えべき)。

技術士は外部情報・外部チェック技術者としての指導を行うべきであり、技術士会は外部機関として企業の経営管理を評価し、危機管理をコンサルティングしていくことが有効であることを提案していくべきでしょう。

牧之原市との協定締結

静岡県支部は牧之原市とに公共土木施設に係る技術的助言に関する包括協定を 2015 年 11 月 30 日に締結しており、16 年度に補修を予定している市道白井本線の法面吹き付けモルタルにクラックが生じている箇所を牧之原市職員とともに岩田会員、山之上会員、柴田会員の 3 名が対応した。



市職員との現地調査

また、協定の一環として 5 月 19 日に牧之原市役所相良庁舎 4 階大会議室にて講習会を開催。「最近の土木行政を取り巻く動向」というテーマで岩田会員が講演を行った。当日は、市役所建設関係職員をはじめ、牧之原市建友会会員や市内建設業者など 50 人が参加した。



5/19 講習会の様子

テクノロジーカフェ開催

会員による一般向け技術講話「テクノロジーカフェ」を 4 月～6 月で各 1 回、静岡市団塊創業塾「くれば」にて 3 名の会員にて開催。

日時：4 月 12 日（火）

講師：村瀬 司会員（衛生工学）

内容：「ゴミ処理の現実と問題」

リサイクル及び分別処理はどこまで可能なのか、本当にパンフレットや案内通りなされているのか。自身が現場実作業で垣間見た真相と問題点について。

日時：5 月 17 日（火）

講師：武中 英雄会員（建設、総合技術監理）

内容：「測る技術の今昔そして未来はドローンや人工衛星を利用」

- ①昔：伊能忠敬による日本地図の作成法
- ②今：最新の位置を知る方法
- ③未来：ドローンの活用方法

日本地図を初めて作った方法から、最近話題のドローンの活用最前線の話しまで。

日時：6月21日（火）予定

講師：近藤 衛会員（水産、総合技術監理）

内容：「まだまだすごい日本の技術 国際協力（ODA）と漁業のお話」

世界には様々な国がある。漁業環境も社会状況も違う。ここでは、西アフリカのモーリタニアを例に取り、海外漁業協力ってなに？なぜ必要なの？について写真を中心に紹介。

テクノロジーカフェでは、市民の方々と一緒に技術を考える講演技術士を募集しています！技術士の社会貢献活動の一環として、日本技術士会から1回実施につき1万円の活動支援費が出ます。希望される会員は事務局まで連絡願います。

お知らせ

静岡県支部の第2回例会を8月27日（土）に、第3回例会を10月29日（土）に静岡市もくせい会館にて開催します。詳細が決まりましたらメーリングリストにて案内をお送り致しますので、お誘いあわせの上、多数の方にご参加いただけますようお願い致します。

編集後記

世に良い商品を出すためには、高い目標を掲げ、それを達成するため挑戦し続ける不断の努力が必要である。しかし、経営者や技術者が倫理感を失い、このまじめな努力を怠ってしまい消費者を欺く不正行為に手を染める事例が後を絶たない。VWのディーゼルエンジン排出ガス不正や三菱自動車の燃費偽装、技術問題ではないが巷を賑やかしている舛添都知事の政治資金不正使用疑惑など他にも多々あるが、いずれにおいても不正は発覚され、大問題となり、社会的に大きな制裁を受ける結果となっている。講演で宮野氏が引用されていた”「物を作る前に人を作れ」という松下幸之助の言葉”は非常に示唆に富むもので、新しい技術を作るのも人、不正をするのも人、良いものを世に出すのも不正をするのも人なのだから経営者、技術者、バックオフィサーなど働く人の全てがコンプライアンスを高く持ち、良い働きができる人財となる人作り、そしてその人作りをするための仕組み作りが不正問題の防止策として非常に重要である。

不正防止には、企業の統治・仕組み・コンプライアンス順守といった経営面からのアプローチはもちろん重要であるが、我々技術士としては高い目標に挑戦しブレイクスルーするために、現状の技術レベルと目標とを上手くバランスさせたマイルストーンを設定することや効率の良い働き方・仕組みを提案することなど技術面から不正を未然防止する手立てについて日々考え、実践していくことが大切であると改めて感じた。

（編集後記：広報担当者）